

3－3 看護部

看護部総括

副病院長兼看護部長 増田良江

令和 6 年度の看護部は、1. 医療・介護機能の充実、2. 連携機能の強化・地域包括ケアシステム支援、3. 健全な経営、方針 4. 職員が誇りを持てる職場づくり、以上 4 つの方針のもと、部署 74、委員会 41、総数 115 のアクションプランに取り組みました。方針に基づくアクションプランの評価は A 評価がほぼ 100%であり、達成されなかった内容は人員確保に関するところでした。

シームレスな部署運営を図るため、外来と手術室、東 3 階病棟と西 3 階病棟と 2 部署を看護師長 1 名で看護管理体制を実施しました。体制変更に伴ないスタッフの協働、連携は向上し、限りある人員で質を担保する実践を実現しました。スタッフ減少の中、病床稼働を上昇させ、コロナ感染症に加えインフルエンザ感染症対応を継続しました。

方針 1. 医療・介護機能の充実

自部署、委員会の特性や役割機能を発揮できるように、課題解決、強みを活かす取り組みを行いました。患者さん、利用者さんへのケア提供が標準化されるように、マニュアルの活用、マニュアル整備及び見直し、患者さんへの説明パンフレット作成をしました。患者さん、利用者さんの理解を深めるため、アセスメント能力向上への取り組み、各種カンファレンスの充実、事例検討を行いました。また、スタッフ一人ひとりの知識、技術向上のため、災害看護、救急対応の研修を行いました。消化器内科の医師 2 名が増員され、内視鏡検査・手術や入院対応について、多職種協働で体制整備に取り組みしました。

方針 2. 連携機能の強化・地域包括ケアシステム支援

在宅復帰のため退院支援、看護サマリーの充実、自宅訪問など、組織外連携に取り組みました。また、部署間の連携は主任会活動も後押しし、多職種カンファレンス、マニュアルの見直しを行い、連携が強化されました。看護部研修を企画、参加の両面から多職種共同で開催し、職員の関係性が深まりました。また、診療技術部職員による、休日昼食時の見守り、食堂への移送支援など連携が拡大しました。

方針 3. 健全な経営

病床稼働率の向上、経費削減、診療報酬・介護報酬加算要件の遵守、業務改善、タスク・シフト/シェアに取り組み成果を得ました。コロナウイルス、インフルエンザウイルスの職員罹患により、マンパワーが低下している中で、部署運営を停滞することなくアクションプランを継続実行し目標達成できたことは、スタッフ一人ひとりの努力、師長・主任のリーダーシップに拠るところです。

方針 4. 職員が誇りを持てる職場づくり

専門職としての自律を促進するため看護・介護実践能力向上に向け、学習会、事例検討などに取り組みました。また、安全、安心確保のためヒヤリハット検討後の再評価を行いました。様々な取り組みから部署内職員の関係性も図られ、協力体制が強化され風土づくりにも寄与したと考えます。子育てや介護を支援する制度を活用することで、働き続ける職場になる反面、現在働いている職員の負担にもなっていることは否めません。定年延長初年度でしたが、それぞれの形で勤務継続をしてくれたことは、次世代のモデルにもなってくれています。しかし、人材確保も困難であることから、職員の心身の負担軽

減となる業務のスリム化を更に促進する必要があります。

次年度は2025年度問題の最終年度となります。少子高齢化は予測よりも加速し、2040年に向けて様々な施策が打ち出されてきます。2024年度は物価高騰や働き手の確保等、経営状況が厳しい中、増収に向けベッド稼働率向上に取り組み成果を上げました。また、地域の方々との連携は今後強化のため、看看連携ナースまるネットおまえざきの活動を再開しました。診療部、診療技術部、事務部との連携、協働を推進し、他部門の協力を得てリスク防止、効率的な業務改善にも取り組みました。病院長提案のサーフィン大会開催、山羊の除草、病院祭や面会制限解除など、活動を増やしてきました。

看護部理念の「心あたかな看護・介護」「信頼される質の高い看護・介護」に立ち戻り、患者さん利用者さん主体の意思決定支援に基づき、専門性の発揮に取り組んできました。しかしながら職員の負担軽減は、喫緊の課題でもあります。IT、DX化を活用しながら、地域住民の皆さまが安心して暮らせる在宅療養支援を看護部職員一同、取り組んでいきます。

外来

外来師長 村松由利子

部署の方針

1. 外来看護師の視点での患者介入
2. 知識の構築
3. 安全な環境調整

部署目標

1. 外来体制変更後の評価
2. 手術室とのタスク・シフト／シェアの実施
3. 退院調整 cf 参加後の外来看護計画立案
4. 要支援患者の介入数の維持
5. 災害責任者アクションカードの作成
6. 二次性骨折 3 の算定
7. 診療材料配置数の削減

評価

目標 1：主任からの統計の結果を踏まえ、毎月のチーフ会で評価ができ目標達成した。

目標 2：全員が手術室の器械洗浄業務を担う事ができ目標達成した。

目標 3：退院調整カンファレンス参加後の外来看護計画立案率は 100%であり、目標達成した。次年度は内容の評価をしていくことを課題とする。

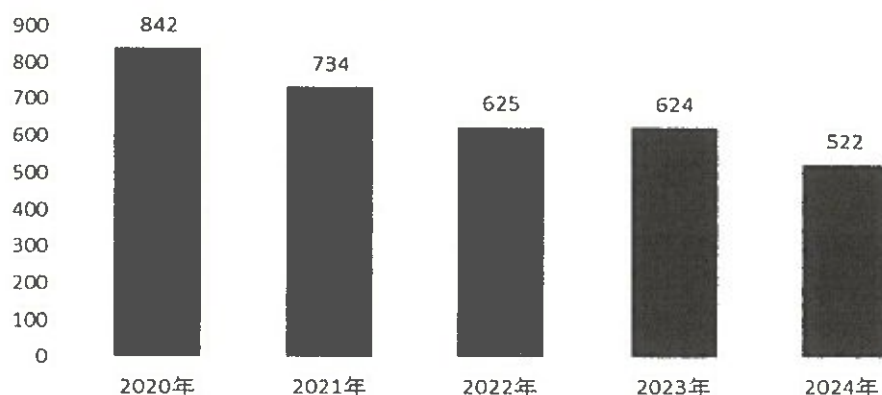
目標 4：要支援患者の介入数は 108 件できており、前年度 51 件を上回ることができ目標達成した。

目標 5：災害アクションカードは全て作成することができ目標達成した。

目標 6：二次性骨折 3 の算定は 42 件あり、目標達成できた。

目標 7：診療材料配置数は 165 個削減でき目標達成。今後も取り組みは継続していく。

手術件数 推移



月別統計

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
稼働日数	21	21	20	22	21	19	22	20	22	19	18	20	245
外科	12	13	12	5	8	11	8	11	8	8	11	6	113
昨年度差	0	-3	-2	-5	-2	2	-1	2	0	-1	0	-13	-23
整形外科	32	19	21	27	24	23	16	30	23	23	29	26	293
昨年度差	12	-12	-9	-1	-4	-2	-13	7	-2	-6	-9	1	-38
形成外科	8	7	7	9	7	8	9	7	8	7	5	7	89
昨年度差	-2	-5	-2	0	-2	-1	2	-4	0	1	-4	1	-16
麻酔科	3	2	1	4	1	6	1	2	1	1	2	1	25
昨年度差	-1	-1	-8	-5	-4	1	-7	-2	-2	-2	-2	-4	-37
合計	55	41	41	45	40	48	34	50	40	39	47	42	520
昨年度差	9	-21	-21	-11	-12	0	-19	3	-4	-8	-15	-15	-114

<目標実行計画>

番号	目標	評価
1	外来とのタスク・シフト／シェアの実施	胃内視鏡外回り実践、透析止血業務においてタスクシェアできており目標達成した
2	整形器械洗浄業務の委譲	看護助手が、三本釘、ガンマーネイル、プリマヒップ・アスロック、ステラの5つ器械洗浄業務を行えるようになり目標達成した
3	部署全体で新入看護師教育を実践	新入看護師教育チェックリストで全員が3以上の評価であり目標達成した
4	手術体位に関わるマニュアルの改訂	マニュアル改訂7つ行い目標達成した
5	経費低減	1、697,740円削減する事ができた。個人でも15,000円/人削減できており目標達成した。

3 階病棟（急性期病棟）

看護師長 鵜澤仁美

部署目標

1. 指導用パンフレットの作成
2. 災害机上シミュレーションの実施
3. 救急事例シミュレーションの実施
4. 退院後の外来・他病棟への患者訪問の実施
5. 病床稼働率の増加
6. 業務の見直し
7. 部署基準に沿った東西間リリースの実施
8. 看護実践の事例検討会の実施

評価

- 目標 1：6 項目の指導用パンフレットを作成し、目標値を達成した。担当を決め計画的に行うことができた。
- 目標 2：危機管理委員会が企画し、災害机上シミュレーションを計画的に実施、目標達成できた。
- 目標 3：担当者を決め、3 症例の事例患者でシミュレーションを企画、実施することができた。
- 目標 4：主任がサポートすることで目的を持った訪問と、訪問後の看護の振り返りができた。
- 目標 5：内科医師の増員と東西で内科の入院受け入れをすることで、60 床運用での稼働率が前年度 89.6%から 95.5%に向上し目標達成した。
- 目標 6：中堅看護師を中心に東西の交換留学を前半に行い、自病棟の課題を見つけ業務改善に取り組み目標達成した。
- 目標 7：東西稼働率の差を 30%から 10%に縮小し、東西で看護師、助手のリリースを組みこんだ勤務体制をとった。また業務量に応じて看護師、助手のリリース調整と毎月の評価を行った。目標は達成した。
- 目標 8：若手看護師に対しては主任を中心にサポートすることで事例検討会を実施し、目標達成した。

回復期リハビリテーション病棟

看護師長 鈴木里江

部署方針

・病床稼働率の維持・増加 ・退院支援、意思決定支援の強化 ・自宅訪問の再開

部署目標と結果

	目標	達成基準	目標値	結果
1	病床稼働率の維持	病床稼働率	90%	89.3%
2	リハビリテーション提供単位数の増加	患者1人当たりの提供単位数/日	5単位	5.2単位
3	自宅訪問の実施	自宅訪問件数 (家屋評価訪問・同行訪問・退院後訪問)	30件	104件
4	多職種での学習会・事例検討会の実施	実施回数 (退院支援・意思決定支援について)	5回	5回
5	多職種グループ活動の実施	各グループ活動の目標達成率	100%	100%
6	業務改善の実施	業務改善実施件数	5件	12件
7	クリニカルラダーⅠ以下の看護実践能力の向上(看護師)	クリニカルラダー他者評価：各スタッフの目標達成率	100%	100%
8	ICF「参加」項目の情報収集の実施(介護員)	情報収集の実施件数	1人/3件	1人/3件

評価

MSW やチームマネージャーとの情報共有を密に行いながら入退院支援を行ない、病棟稼働率の維持に向けて実践したが、コロナクラスターや近隣病院のベッドコントロールの影響、一時的な整形患者の減少により目標値は達成できなかった。しかし、リハビリテーション提供単位数については、昨年度より増加し収益に貢献した。また、意思決定支援など多職種での学習会やグループ活動、自宅訪問を再開し、多職種連携の強化や支援内容の質の向上に繋げた。その他、業務改善にも取り組み、働きやすい職場環境への取り組みができた。

認定看護師活動報告

1) がん性疼痛看護認定看護師：村松由利子（外来・手術室）

ア 目的

- ① がん性疼痛を有する患者への疼痛緩和や、患者の家族への支援に関する最新の知識と技術を用いて水準の高い看護実践を提供できる。
- ② 看護現場におけるがん性疼痛看護に対する看護ケアの広がりや質の向上を図る。

イ 活動目標

- ① がん患者を全人的に捉えることができるよう、委員会・緩和研究会、カンファレンスなどにおいてサポートする。
- ② カンファレンスや緩和ケア研究会の場で、がんの痛みにおいて個別にあった薬物療法・非薬物療法を提供する。
- ③ がん患者やその家族が、安心して生活することができるための計画を立案し、実践できるよう指導する。
- ④ 相談者（コンサルティ）が、問題解決能力を養うことができるよう支援する。
- ⑤ がん性疼痛緩和指導管理料、がん患者指導管理料 1.2 を算定し組織へ参画する。

ウ 活動内容と実績 令和 6 年度活動内容実績

活動項目	内 容
看護実践	・ がん患者疼痛マネジメント 42 件
指導	・ 患者・家族に医療用麻薬の使用方法を指導
相談	・ コンサルテーション 30 件
その他	・ がん患者指導管理料 1 算定 16 件 ・ がん性疼痛緩和指導管理料算定 43 件

2) 脳卒中リハビリテーション看護認定看護師：鈴木里江（回復期リハビリテーション病棟）

ア 目的

- ① 脳卒中リハビリテーション看護分野における、患者・家族に対し、急性期・回復期・維持期を通し質の高い看護を提供する
- ② 看護現場における脳卒中リハビリテーション看護に対する看護ケアの広がりや質の向上を図る

イ 活動目標

- ① 脳卒中患者に対して、生活再構築、セルフ能力を高めるための回復支援ができる
- ② 脳卒中患者の高次脳機能障害が日常生活に及ぼす影響を予測しケアの実践ができる
- ③ 脳卒中の発症・再発予防のための健康管理に指導が出来る

- ④排尿自立に向けた、介入を実践する
- ⑤院内コンサルテーションに対して、相談・支援ができる

ウ 活動内容と実績 令和6年度活動内容実績（2024年4月～2025年3月）

活動項目	内 容
実践	・高次脳機能障害患者に対して、患者の状態に合わせたタイムリーな支援を行うことができるように定期的なカンファレンスの実施 ・院内脳卒中患者に対して、脳卒中再発予防指導実施 ・排尿自立支援 2回/週 ラウンドを実施
指導	・新入オリエンテーション
相談	・院内コンサルテーション件数 15 件

3) 皮膚・排泄ケア認定看護師；岡本律子（療養病棟）

ア 目的

- ① ストーマの造設や褥瘡などの創傷及び失禁に伴って生じる問題に対して、専門的な技術を用いて質の高い看護を提供する
- ② 皮膚・排泄ケア（創傷・オストミー・失禁）領域で、優れた実践力を発揮し、看護現場におけるこの領域の看護ケアの広がりや質の向上を図る

イ 院内における活動目標

- ① ストーマ造設者や保有者に対し、身体的・精神的・社会的問題を的確に把握した質の高い看護が実践できる
- ② 自施設の褥瘡対策がマニュアル通りに実施できるよう、褥瘡対策委員会(院内・看護部)を運営する
- ③ 排尿の自立にむけ、尿管の抜去に対する介入を行う
- ④ 相談に対し、症例に応じたタイムリーな看護実践を行う

ウ 活動内容と実績 令和6年度活動内容実績

活動項目	内 容
実践	・ストーマの造設者や保有者の身体的・精神的・社会的問題に対するケア ・ストーマ外来 ・褥瘡や皮膚潰瘍・術後創などの創傷ケアやスキンケア ・褥瘡回診（月2回定期的な多職種によるラウンド）合計144件 ・排尿ラウンド 毎週1回
指導	・新入オリエンテーション
相談	・コンサルテーション対応延べ件数 98 件
その他	・院内 NST・褥瘡対策委員会運営（褥瘡対策データ集計・研修会実施等） ・東海アクシス看護専門学校「在宅看護援助論Ⅱ」非常勤講師

4) 感染管理認定看護師：松井順子（感染管理室）

ア 目的

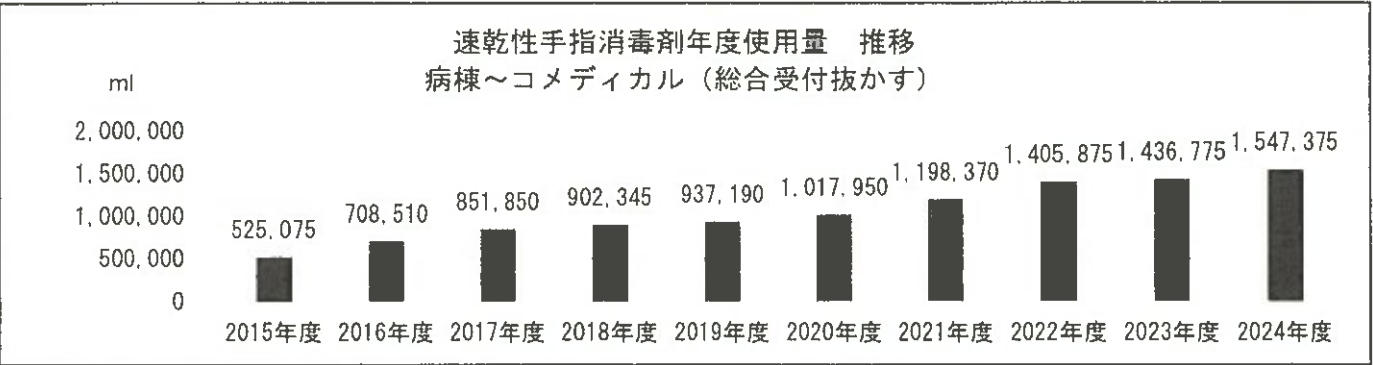
専門的な知識と技術を用いて、患者・来訪者・医療従事者・施設・環境を対象に、感染に対するリスクを最小限に抑えるため、正しくかつ効率的な感染管理を計画、実践、評価し、施設が提供するサービスの質の向上を図る。

イ 活動目標

- ① 手指消毒液使用量の増加 ②感染リンクスタッフ委員会による感染管理活動 年間計画の遂行

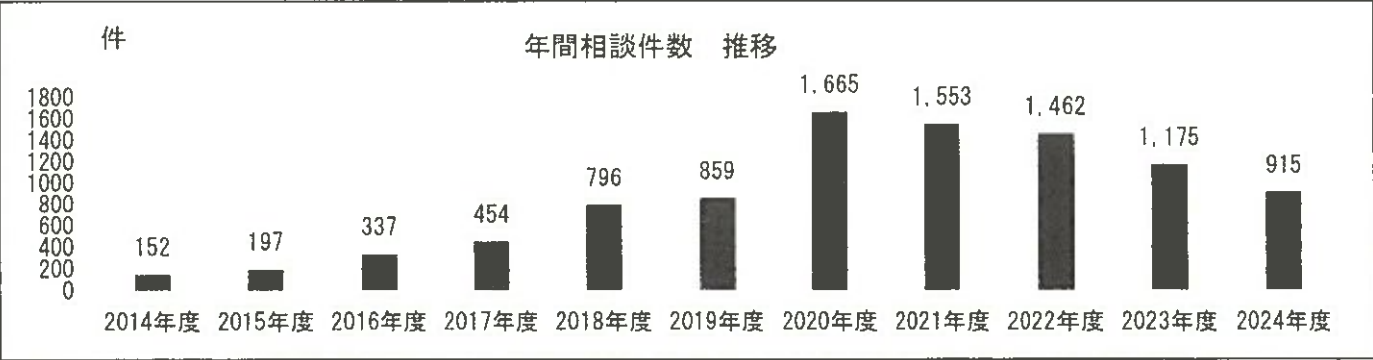
ウ 活動内容と実績

① 2024 年度速乾性手指消毒剤使用量⇒目標達成



② 感染リンクスタッフ委員会年間計画の最終評価基準 ⇒ すべての計画について、達成

③ その他



アウトブレイク 医療関連感染評価 適正抗菌薬支援 等の介入	院内外 研修講師	中東遠感染対策 カンファレンス参加	休日時間外 呼び出し・相談・報告
177 件	7 回	8 回	203 件

院内感染対策マニュアル等、マニュアル更新	3 回
有事事項についての情報発信・提供	46 件

5) 訪問看護認定看護師：松下知子（しろわクリニック）

ア 目的

- ① 在宅療養者・障がい者及びその家族に対して、熟練した看護技術と専門的知識を用いて質の高い看護を実践する
- ② 在宅看護領域における訪問看護に対する看護ケアの広がりや質の向上を図る

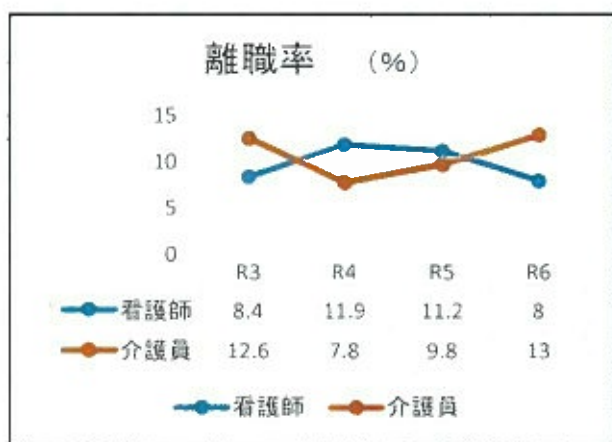
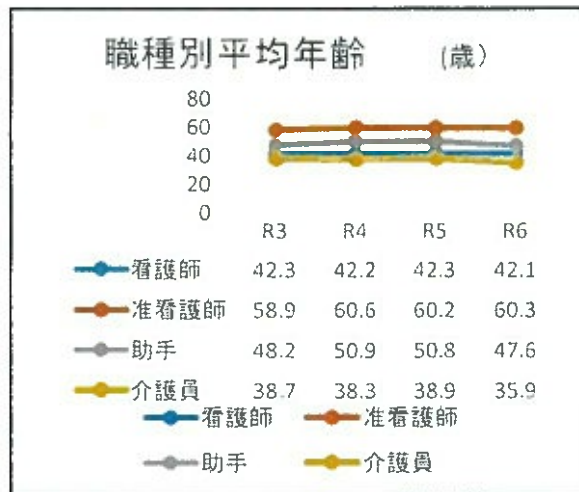
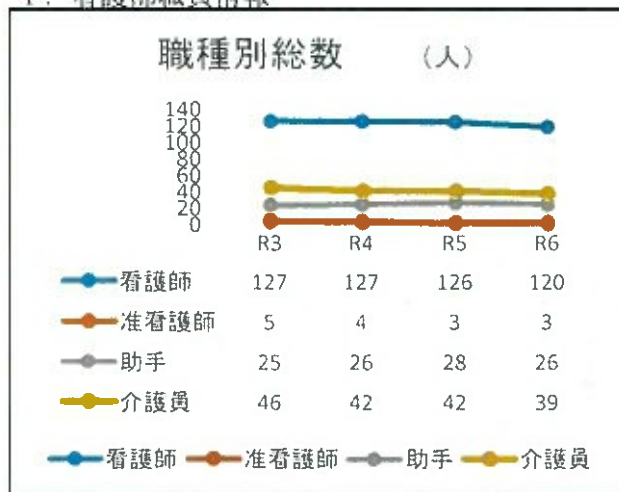
イ 活動目標

- ① 多職種・他部門との連携を強化し、質の高い看護ケアを提供する
- ② 在宅療養者・障がい者の主体性を尊重し、セルフケア能力を高める支援ができる訪問看護師を育成する
- ③ 複雑・困難事例・在宅看取り事例に対し、個別性のある看護実践を提供する

ウ 活動内容と実績 令和6年度活動内容実績（2024年4月～2025年3月）

活動項目	内 容
実践	・ 訪問診療新規利用者数：68件／年 ・ 在宅看取り件数：40件／年
指導	
相談	・ 訪問看護ステーションはまおか 御前崎市地域包括支援センター ・ 県西部地区総合病院相談部門
その他	・ 御前崎市多職種連携プロジェクト会議 ・ メディケアネット御前崎 ・ 御前崎市在宅医療・介護連携推進会議

I. 看護部職員情報



2. 長期研修(7日間以上)

認定看護師教育課程 : 1名
「認知症ケア」
災害支援ナース養成研修 : 1名
看護職員実習指導者等講習会 : 2名
看護職員実習指導者等講習会(特定分野) : 1名
認知症介護実践リーダー研修 : 2名

3. 派遣した出前講座・出前授業・研修会講師

日 時	内 容	依頼施設/対象者	派遣者数
5月7日～6月25日	病態学Ⅲ 骨・関節系の疾患の理解	東海アクシス看護専門学校/2年生	1名
5月13日	社会福祉学科卒業生による就職・進学ガイダンス	静岡県立大学短期大学部	1名
5月30日	卒業生との懇談会	東海アクシス看護専門学校/1学年	2名
6月～8月	認知症介護実践研修	静岡県社会福祉協議会	1名
6月13～16日	ユピテル・静岡新聞SBSレディース救護派遣	静岡カントリー浜岡コース	4名
6月27日	職業講話 みんなで話そう看護の出前授業	御前崎中学校/2年生	2名

7月2日	職業講話 みんなで話そう看護の出前授業	浜岡中学校/1,2年生	2名
7月8日	福祉・介護施設職員向け感染症 対策研修	静岡県感染症危機管理担当 部長	1名
7月19日	訪問看護に関わる困難事例検討	訪問看護ステーションよこ すか	1名
10月16日	在宅療養における虐待対応研修	山梨県訪問看護連絡協議会	1名
11月10日	静岡県支部地区ストマリハビリ テーション講習会	静岡県西部地区ストマリハ ビリテーション講習会	1名
11月17日	訪問看護ステーションにおける 高齢者虐待対応について	訪問看護ステーション ク ラエ相模原	1名
11月20日	地域看護Ⅱ 医療管理を必要と する療養者の看護（褥瘡管理）	東海アクシス看護専門学校 /2学年	1名
11月20日 12月2日	在宅看護学特論Ⅲ 病院と地域 をつなぐ在宅療養支援	山梨県立大学/博士前期課 程1年生	1名
11月23、24日	まちの保健室	静岡県看護協会中東遠地区 支部/御前崎市民	8名
1月24日	感染症予防対策研修会	静岡県西部保健所	1名
1月24日	キャリア形成Ⅲ	東海アクシス看護専門学校	1名
1月25日	外来看護師交流会	静岡県看護協会	1名
1月30日	いのちの授業	浜岡東小学校/4年生	2名
2月21日	卒業生と在学生との懇親会	聖隷クリストファー大学/ 3年生160名	1名
2月14日	いのちの授業	浜岡第一小学校/4年生	2名

4. 外部からの受け入れ

看護学生病院見学 8名
介護学生センター見学 1名